

フィールドワーク報告書

平成 25 年度入学

派遣国：マレーシア

上原健太郎

2000 年代以降のイスラーム金融の実践は、その活躍の場を銀行に限定せず、証券、保険という分野にも拡大し、今後もその動向に注目が集まってきている。イスラーム金融サービスが提供されてきた地域の中で、特にマレーシアは、東南アジア地域のイスラーム金融を牽引してきた存在として挙げることができるであろう。

今回のフィールドワークでは、そのようなマレーシアのイスラーム金融について、その実態の一面を調査するとともに、今後の研究を遂行していくための基礎体力（語学、資料）を身につけることを目指した。具体的な調査の内容は、①クアラルンプールにあるイスラーム金融機関への聞き取り調査、②現地言語であるマレー語クラスの受講、および③大学図書館や書店での文献収集である。以下、①～③までの活動内容を簡単に紹介していく。

まず①では、ムスリムの宗教的義務行為の 1 つであるマッカへの巡礼を行うための基金管理を目的に設立されたマラヤ・ムスリム巡礼貯金公社（Lembaga Tabung Haji、写真 1）、マレーシアにおける最初のイスラーム銀行であるマレーシア・イスラーム銀行（Bank Islam Malaysia Berhad, BIMB、写真 2）、さらに同国の信用組合銀行を代表する庶民銀行（Bank Rakyat）を訪問し、それぞれ聞き取り調査を行った。内容は、各金融機関の運営目的や、そこで提供されている金融商品の説明（従来型金融商品とイスラーム金融商品間の利潤に対する考えの違いなど）である。

マラヤ・ムスリム巡礼貯金公社では、Corporate Finance & Services 部門のマネージャーを勤める Azila Abdul Hamid 氏と面会し、マラヤ・ムスリム巡礼貯金公社の事業内容、またマレーシア・ムスリムにおけるこの金融機関の必要性について聞き取りを行った。

次に②については、マレー世界のイスラーム金融研究において、現地言語であるマレー語文献の利用は必須であることから、約 1 か月半の間、マレーシア国民大学の付属機関で



写真 1 マラヤ・ムスリム巡礼貯金公社
(Lembaga Tabung Haji)



写真2 マレーシア・イスラーム銀行
(Bank Islam Malaysia Berhad, BIMB)

も指導を受けた。

最後の③では、主に、現地の書店である MPH 書店 (Mid Valley)、紀伊国屋書店 (KLCC)、またマレーシア・イスラーム金融研究所 (Islamic Banking and Financial Institute Malaysia, IBFIM) において文献収集を行った。現在、書店で手に入らない書籍については、マレーシア国民大学のプリントアウト・サービスを利用して、コピーを入手した。各々の図書館・書店には、イスラーム金融、またはイスラーム経済関連の著書が集められたコーナーが見受けられ、文献収集に大いに役立ったとともに、マレーシアにおける今後のイスラーム金融に必要とされている人的資本を育成しようとする意図も、このような書籍のラインアップから垣間見られた。

最後に、マレーシアにおけるイスラーム金融について、現地の金融機関・教育機関を訪ねて、そこで抱いた感想を述べる。上述したように、現在に至るまでマレーシアは、東南アジアにおけるイスラーム金融を牽引する存在といわれる一方で、国内における金融市場のシェアを考えると、マジョリティな存在とはいえないといえる。マレーシアのイスラーム金融の更なる発展のためには、近年充実が図られているイスラーム金融教育機関や国際イスラーム銀行などに加えて、未だ発展途上の分野（低所得者層向けのリテール金融商品分野など）の強化が必要だと感じた。そして、そのような分野については、マレーシア政府、およびマレーシア中央銀行 (Bank Negara Malaysia, BNM) による法律などの制度面の整備が求められよう。このような今後の更なる発展が見込めるマレーシアのイスラーム金融については多くの研究すべき争点があると感じたが、その研究はイスラーム金融の実践の発展を注意深く見守りながら行っていくべきだという点を強く実感した。

あるマレー世界文明研究所 (Institut Alamdan Tamadan Melayu; ATAMA) にて、初級クラス (7 段階中 1 段階目) の授業を受講した。授業内容は、報告者の希望により、資料読解を目的とした語彙・文法中心で、具体的には、基本的な挨拶から動詞の作り方までが範囲である。講師の

先生からは、マレー語で日常的な単語や “n” “ng” また “m” の発音の違いについて